

エグゼクティブブリーフ： 高度な脅威に対処するために 高度な E メールセキュリティが不可欠な理由

ランサムウェアや未知の脅威の台頭により、
E メールセキュリティがこれまで以上に重要となっています



要旨

今日のハイパーコネクテッドワールドでは、Eメールベースの通信は日常的に行われているだけでなく、ビジネスを効率的に進めるための重要な基盤となっており、世界中で1日に送信されているEメールの数は、毎年5%以上増加しているの見積もられています。Eメール通信がこのように普及していることから、Eメールはさまざまな脅威のベクトルとして広く使用されており、この傾向は今後も続くことが見込まれます。

増加し続ける Eメールの使用

テキストメッセージやソーシャルメディアが急増しているなかで、Eメール通信は今なおその勢いを強めています。Radicati Groupによる最近の研究では、全世界で1日に送受信されるEメールの総数は2,050億に達し、この数は毎年5%以上増加しているの見積もられています¹。このことはハッカーも知っており、組織を攻撃する機会を絶えず探っています。

Eメール攻撃の分析：

- 緊急の資金振替を承認するEメールがCEOからCFOに届きます。しかし、このEメールは実際にはサイバー犯罪者が送りつけたものです。
- 重要なシステムの管理権限を持つ従業員に、ネットワークパスワードの更新を促す緊急のEメールがIT部門から届きます。実際にはこのパスワードはサイバー犯罪者の手に渡ります。
- 給付金の支払い機関に関する重要な添付ファイルを読むように指示したEメールが従業員に届きます。この添付ファイルにはトロイの木馬が隠されているとは知らずに、従業員はファイルを開き、マルウェアをアクティブ化してしまいます。

今日の組織を襲うEメールの脅威

ハッカーにとって、Eメールは、組織にさまざまな脆弱性をもたらす手段となっています。Eメールを媒介とする一般的な脅威をいくつか以下に示します。

- **マルウェア** – Eメールは、既知または未知のマルウェアの配信に頻繁に使用されるメカニズムの1つであり、通常はEメールの添付ファイルにマルウェアが埋め込まれます。ハッカーは、この添付ファイルが開かれるか、コンピューターまたはネットワークにダウンロードされることを狙っており、それによって、リソースにアクセスしたり、データを盗難したり、システムを破壊したりします。
- **ランサムウェア** – 特に悪質なマルウェアの変種の1つがランサムウェアです。Eメール添付ファイルがアクティブ化されると、そのコードがネットワーク上に埋め込まれます。通常、ランサムウェアは、重要なファイルやシステムを暗号化したり、ロックしたりします。その後、ハッカーは、ファイルやシステムの暗号化またはロックを解除してもらいたかったらお金を払うよう組織を恐喝します。
- **フィッシング** – この方法はハッカーにより広く使用されており、ハッカーのサイトへのリンクが埋め込まれたEメールが利用されます。だまされやすいユーザーがこのサイトにアクセスすると、PII（個人情報）を入力するように指示されます。入力した情報は、IDの盗難や、企業データの侵害、他の重要なシステムへのアクセスに悪用されます。
- **スピアフィッシング/ホーリング** – フィッシングのこの変種では、IT/ネットワークの主要管理者や会社役員が標的にされ、社内のシステムやデータにアクセスすることを目的として、こうした人々に、信頼できるソースからの送信を装ったマルウェア入りのEメールが送られます。
- **ビジネスメールの侵害/CEO詐欺/なりすましメール** – FBIの最新の報告¹によれば、過去2年間に発生したビジネスメールの侵害(BEC)による損失は総計31億ドル以上に上り、世界中のおよそ22,000社の企業が被害に遭っています。FBIは、ビジネスメールの侵害を、国外のパートナーと取引し、電信送金を定期的に行っている企業を標的とした巧妙なメール詐欺と定義しています。
- **スパム** – Eメールを使ってスパムや不要なメッセージが配信されてくることで、受信トレイが一杯になってネットワークリソースが浪費されたり、ビジネスの生産性が低下したり、営業コストが増加したりすることがあります。

- **送信Eメールのハイジャック** – 企業には、企業ポリシーや政府の規制も適用され、自社から送信されるEメールを保護して顧客のPIIの漏洩を防ぐ義務があります。ゾンビ攻撃やIPのハイジャックによって、顧客のPIIが拡散され、企業のレピュテーションが低下することがあります。

結論

ハッカーは、今日の組織にとってEメール通信は不可欠であることに着目しています。複雑化し、成熟した今日の脅威に対処するには、Eメール専用の最先端の保護機能を備えた、多層型のセキュリティソリューションを導入する必要があります。今日の新たな脅威に効果的に対処するには、不可欠なEメール保護機能を提供する次世代のEメールセキュリティ管理ソリューションを実装するのが賢明です。

組織のEメールを保護する方法の詳細については、弊社のソリューションブリーフ、「[高度な脅威を阻止するために、次世代のEメールセキュリティに求められる機能](#)」をご覧ください。

¹ www.ic3.gov/media/2016/160614.aspx

© 2017 SonicWall Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

SonicWall is a trademark or registered trademark of SonicWall Inc. and/or its affiliates in the U.S.A. and/or other countries. All other trademarks and registered trademarks are property of their respective owners.

The information in this document is provided in connection with SonicWall Inc. and/or its affiliates' products. No license, express or implied, by estoppel or otherwise, to any intellectual property right is granted by this document or in connection with the sale of SonicWall products. EXCEPT AS SET FORTH IN THE TERMS AND CONDITIONS AS SPECIFIED IN THE LICENSE AGREEMENT FOR THIS PRODUCT, SONICWALL AND/OR ITS AFFILIATES ASSUME NO LIABILITY WHATSOEVER AND DISCLAIMS ANY EXPRESS, IMPLIED OR STATUTORY WARRANTY RELATING TO ITS PRODUCTS INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE

IMPLIED WARRANTY OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON- INFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL SONICWALL AND/OR ITS AFFILIATES BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, CONSEQUENTIAL, PUNITIVE, SPECIAL OR INCIDENTAL DAMAGES (INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, DAMAGES FOR LOSS OF PROFITS, BUSINESS INTERRUPTION OR LOSS OF INFORMATION) ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS DOCUMENT, EVEN IF SONICWALL AND/OR ITS AFFILIATES HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. SonicWall and/or its affiliates make no representations or warranties with respect to the accuracy or completeness of the contents of this document and reserves the right to make changes to specifications and product descriptions at any time without notice. SonicWall Inc. and/or its affiliates do not make any commitment to update the information contained in this document.

当社について

創設後 25 年以上にわたり、SonicWall はこの業界の信頼できるセキュリティパートナーとして存在しています。ネットワークセキュリティから、アクセスセキュリティ、電子メールセキュリティまで、SonicWall は自社の製品ポートフォリオを継続的に進化させることで、組織の革新、促進、成長を可能にします。世界の約 200 の国と地域に 100 万台を超えるセキュリティデバイスを持つ SonicWall は、お客様が自信を持って未来を受け入れられるようにします。

If you have any questions regarding your potential use of this material, contact:

SonicWall Inc.
5455 Great America Parkway
Santa Clara, CA 95054

Refer to our website for additional information.

www.sonicwall.com